
ソリード・リスミスク -追い求めるディレクト-

蒼出水

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ソリード・リスミスク - 追い求めるディレクト -

【Nコード】

N7513U

【作者名】

蒼出水

【あらすじ】

この物語は主人公、蒼辰^{あおとぎ} 閃也^{せんや}の正義感は強いが、引きこもり、基本は暗い性格です。そんな主人公が、探偵もどきの仕事を請け負うファンタジー学園物語です。

閃也「さてと、始めますか・・・仕事をね」

プロローグ 些細に動く騒動の始まり（前書き）

どうも初めまして、蒼出水です。

これが、初めての作品となります。

更新遅めですが、話がたまってきたら連続投稿していきます。

誤字脱字がありましたらご一報ください。

感想や構成についてご教授下されば幸いです。

できることなら、完結させるまで執筆を続けていきたいと思いますので、よろしくお願いします。

プロローグ 些細に動く騒動の始まり

プロローグ

あなたは「化物」をしていますか？

女子学生「ハッハッハッハッ」

「化物」という言葉は、派生した存在を一つにまとめた呼名。

??? (なに、なんなの!!!アレは)

妖怪・幽霊・ゾンビ・魔物など、多種多様に存在している。

ガアッアアアアアアア

女子学生「っ！」

姿、形は様々でも共通点はある。

ドン

女子学生「きゃっ!」

一つ、人の、「一般的な人間」の姿をしていない。

女子学生「たっ助け・・・あっあああ!」

一つ、人の知識を超える事象を起こす、もしくは、身にまどっている存在。

ガッアッアア

女子学生「っ、キヤアアアア」

そして、「化物」は、

ガッガアアアア

人を喰う存在なのだから。

プロローグ

ガアアアッア

女子学生「あ、いや」

私は、『もう助からない』そう思わずにはいらなかった。

ガアアアア

女子学生「ッ!」

私は叫びながら飛び掛かる化物を見た瞬間、咄嗟に目を瞑った。

その時、私はここで死ぬと感じたのか今までの過去を思い出していた。

家族と過ごした日々、楽しかった学園生活、私はただ知らない内に涙をながしていた。

ドオゴ!!--!

ガアツ?!

大きな打撃音が空間に響いた。

???「ハー、何でこうなるかな」

女子学生「え?」振り向くと、一人の少年が立っていた。

ダダン

ガツガツア

銃声が響くと、私を追いかけていた「化物」は血(?)を噴き出し、痛みをこらえるように苦悶していた。

???「ったく、めんどくせー」

女子学生「あ、あの」

???「あ?」

女子学生「あ、あなたは」

?????」「・・・こいつはまた面倒な」

私はなんとか言葉を紡ぐようにするが彼はそれを遮るように言葉を紡ぐ。

女子学生（って違う、そうじゃなくてお礼を）

?????」「うんそうだ、そうしよう」

彼はそういうと私に向けて手の平を見せるように手を伸ばす。

女子学生「え？」

?????」「寝むれ」

私はその言葉を最後に意識を失った。

?????side

「????」「あー、めんどくせー」

俺の名は、アオトキ蒼辰、センヤ閃也、ある面を除けば、平凡凡々の学生だ。
しかし、しかしだ！

ガアアアアア

なんでこう厄介事が起きるんだよ！！

閃也「ハー……俺は今機嫌が悪い」

ああ、なんで「アスメント」（能力）を持って生まれてきてしまったんだ、俺？！

閃也「だからさ……」

俺は言い放つと同時に大地を蹴った。

閃也「失せろ」

この世界には、アスメントを持つ人間が存在している。
アスメントとは、いわゆる超能力の一種であると現代科学で定義されている。

能力には基本的に、三つのパラメーターからレベルを定めている。
アント（力）、リンケージ（陣）、マクス（源）の三つが基本パラメーターである。
アスメントはいかにして現出するのか解明できていないため覚醒者は、迫害に会うケースが多い。

また、各国での覚醒者の扱いは、俺の知る限り人体実験のモルモット扱いなのだから最悪だ。
例外としては、要人の子息かコネのある人物だけが危機を回避しているらしい。
まったく持って、今の世はアスメントホルダーにとって最悪な世の中だ。

女子学生「んっ〜」

閃也「・・・ハア、貸しイチだぞ、あの野郎」

俺は先ほど、ガイウルフ（狼男）に襲われていた女背負って歩いて

いた。

彼女の名は、穂咲^{ホサキ} 鞘^{サヤ}俺の通う学園のクラスメイトだ。

黒髪のロングヘアで、生粋の日本人と思える容姿をしている。

男づれでも見惚れてしまうほどの美人と誇張してもだれもが納得する程の美女だ。

くわえて学力、性格面も良く学園でも人気が高い。

非公式ながら、ファンクラブが設立されるほど、といえは人気の高さが分かるだろうか？

そして俺の友人^{タチ}の中にも、この子に本気で惚れている奴がいる。

まあ、いつもはいい加減なのだがこと彼女のことになると見境がなくなるからな、アイツ。

それに、この状況をアイツに見られると厄介だ。何してくるかわからんからな。

ま、人狼も適当にボコって警察に一報したし後は、彼女を届けるだけなのだが……

閃也（何か忘れてるような……………）

しばらく思考する。

閃也「考えるのもめんどい」

思考がめんどくなったので、サッサと思考を打ち切った。

閃也「サツサと終わらせて寝よう」

思い立ったが吉日という形で、俺は背負っている彼女を家族に引き渡して帰宅した。

彼女の両親には、暴漢に襲われていたところを友人が助けたということにした。

俺が彼女を背負っていたことについては、たまたま俺が現場を通りかかったところを友人に彼女を押し付けられた、と説明して帰路についた。

俺はシャワーを浴びて、そのままベッドに寝っ転がって寝むりについた。

ブログ 些細に動く騒動の始まり（後書き）

どうも、初めまして蒼出水です。

処女作で更新遅めです。

誤字脱字がありましたらご一報ください。

感想や構成についてご教授下されば幸いです。

できることなら、完結させるまで書き続けていきたいと思いたいで、よろしく願います。

第一話 依頼と報酬

リリツリリツリリツ

?「ん、んー」

目覚まし時計の音を聞き取り、音のするほうに腕を伸ばす。手のひらに物体の感触を感じ、手探りでスイッチを探す。

カチツ

小さなスイッチ音と同時に、あたりは静かになった。

「ふあ、あー。・・・準備するか」

そう、言う俺は、クローゼットの中から、自分の通う学園の制服を手に取り着替えを済ませて、リビングに向かう。

誰もいないリビング。

テーブルに置いてあるパンを手にとって時計を見る。

「・・・行くか」パンを頬張りながら、鞆を持って学校へと向かう。

俺はただ今一人暮らしの中学生をしている。

俺の親はというと、俺が中学に入学早々に海外へ出張する事になった。

まあ、急に決まったことなので仕方ないことなただけだな。

だが、今年度あたりに仕事の区切りがつくらしく、その頃に一度家に戻ってくるそうだ。

昔の俺にとっては吉報なのだが・・・今の俺にとっては複雑だ。

女子学生C「おはよー」

男子学生K「おはよ」

女子学生A「でさー」

女子学生I「えっ、うそー」

閃也「・・・」

周りは、親しい友人たちと会話しながら校門へ入ってゆく。

俺は誰とも喋らぬまま教室へと入る。

教室には静寂が漂っていた。

閃也「・・・まだ誰も来てないか」

そう口にする、後ろから声をかけられた。

???「おはようございます。蒼辰さん」

振り向くと、クラスメイトの天城 成美、アマギ ナルミがいた。

閃也「おはよう。天城さん」

挨拶を返して、割り当てられていた席に座る。

天城さんも自身の席に座った。

俺は、一冊の小説を鞆から取り出して続きを読み始めた。

それから数分後、他のクラスメイト達が教室に続出と入室し、静かな教室から騒がしい教室へと変貌した。

閃也（騒がしい）

人は基本的に群れで行動する性質を持つ生き物だ。

その人の性を非難している俺は『異端者』といえるだろう。

ま、すでに社会的に異端者となっている俺にとってはどうでもいいことだ。

閃也（何よりめんどくさい）

俺は、内心でため息を吐きながら手持ちの本を鞆に戻す。

先ほどから、天城さんがこっちを盗み見ているが、別に気にするほどのことでもないだろう。

俺は彼女の視線を無視して、窓に顔向け空を見ながら自分に問いかける。

閃也（さて、今日は平穩に過ごせるかね）

その問いに対する答えは出せるわけもなく、ただ時間だけが過ぎていった。

あれから、いつもと変わらずただ授業をうけた放課後、いつも通りに図書館によって帰ろつかないと考えながら、教室を出ると、後ろから声をかけられた。

???「あ、あの蒼辰さん」

閃也（今日はよく声をかけらるな？）

いままでにない変化に気づきながら振り返る。
声から判断するに、天城さんだろう。
そこには、予想通りに天城さんがいた。

閃也「何か用ですか？」

淡々と用件を問う。

天城「あの、相談したいことがあって…」

彼女の声が段々と小さくなっていく。

その彼女の性格から、今の態度、表情と仕草から俺は、頼みたいこと
との予想をつけた。

閃也（朝からの視線は、それでか）

彼女が、朝から俺を盗み見ていたのはそういう事情があったからかと
内心納得した。

閃也「悪いけど、俺は他人に構ってる暇はないんで、じゃ」

俺はやんわりと拒否を思わせる言葉を口にしながら振り返り、帰る
うとする。

天城「あ、ほ、報酬は『聖女』です！」

閃也（！）

俺は、彼女の言った言葉に足を止めた。
そして、振り返らずに問いかける。

閃也「本気か？」

天城「・・・はい」

閃也「その言葉は誰からだ」

天城「えっと、Rァイル・・・です」

俺は、「またあいつは」と吐き捨てて彼女に向き直る。

閃也「確認だ、その報酬の意味を理解しているのか？」
天城「はい」

全てを理解して今ここにいると、混じりけのない瞳を俺に向ける。

閃也（こりゃ、本気だ）

俺は、一度ため息をついた。

閃也（昨日といい、今日といい、何か憑いてんのかね）

そう思いながらも

閃也「わかった。話を聞こう」

俺は意識を切り替えて天城 クライアント 成美にそういった。

IN ファーストフード店内

場所は変わって、ファーストフード店内に移動した。

この手の依頼は、誰にも聞かれない事が前提の依頼なので、この店内の支配人を呼びつけて、「仕事だ」と口にする、支配人が頷き、防音が敷いてある部屋に案内した。

支配人は、手早く飲み物を用意した後、一礼して部屋を出た。

閃也「さて、依頼の内容を聞かせくれ」

成美「はい」

天城成美クリミアントの依頼は、ここ最近起きている人攫い事件にあった一人の被害者を探してほしいというものだった。警察にも届けたが、なにも手掛かりが見つかからないそうだ。

閃也「……」

その被害者の「アーシェ・セルミス」ロシア人と日本人のハーフで、家庭環境はそれなりに裕福らしい。

が、それは一般的な範囲でのこと、身代金目的にしては魅力は低い。だったら、

閃也「彼女の御両親の……怨恨の線はないかな？」

成美「それは……わかりません」

閃也「そうか……」

閃也（聞けば聞くほど変な事件だ。相手の意図が全然見えな……）

思考を走らせていた瞬間昨日の出来事を思い出した。

閃也「あっ」

昨日の夜中に鉢合わせた「獣」の事を思い出した。

閃也（もし、獣の目的が、アレだとすると……）

俺は、ある可能性に思い当たりさっそく行動に移す。

閃也「わかりました。では、依頼は人探し、報酬は「聖女」、よろしいですね」

彼女は、頷く姿を確認して、店を後にする。

閃也（俺の予想が事実だとすると、問題は時間だな）

俺は直ぐさま走り出した。

閃也「まったく、損な性格だ！」

俺はそう小さく吐いた。

第一話 依頼と報酬（後書き）

さて、次の話では戦闘を載せます。
うまくかけるか・・・。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7513u/>

ソリード・リスミスク -追い求めるディレクト-

2011年10月7日23時29分発行